

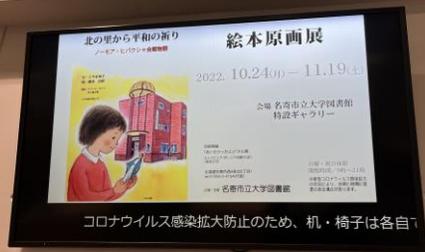
名寄市立大学で 絵本原画展

前号でお知らせしたように、藤本四郎先生から絵本『北の里から平和の祈り』の原画が寄贈されました。8月には剣淵の絵本の館で原画展が開催され、次いで10月24日～11月18日まで名寄市立大学図書館で展示されています。

道北の名寄市。1960年に開学した名寄女子短大を母体に4年制大学へ。現在保健福祉学部のもとに4学科をそなえています。2017年に図書館が新築され、蔵書・学習機材も整い、学究の場としての大学の心臓部になっています。

その図書館の2階特設ギャラリーで原画展が開催されています。静かな環境で落ち着いて絵本の世界にひたることができます。同時に『あいたかったよ』（エルズピエタ作・こやま峰子訳）のパネル展も開催されています。

一般の方も観覧できます。ぜひご覧になって下さい。



『北の里から平和の祈り』 の絵を描かせていただいて

藤本四郎



（前略）絵を描くうえで、主人公の女とも留意した点は、主人公の女の子の気持ち、絵本を読む方たちに伝わるように描く……とい

うことでした。たとえば造船所で亡くなったお父さんの運ばれたところが病院ではなく死体の山であった……というくだりがありますが、その悲惨な様子を絵にすることも可能ですが、それよりも父母を同時に亡くしてしまった少女の心の内がどんなであったか……を絵本を読む子どもや若者・大人に想像していただけるような絵にすることを選びました。読者が絵本の中で主人公の女の子に寄り添い、ともに生き、やがてノーモア・ヒバクシャ会館がつくられていく経緯を知って、さらに平和を希求してゆく未来

につながれば……と願っております。

……「人間のしわざ」である戦争を二度と起こさせないためにノーモア・ヒバクシャ会館やこうした施設が果たす役割は大きいと感じます。絵本『北の里から平和の祈り』が北海道被爆者協会の今後の活動のうえで少なからず役割を果たしてくれるようにと心から願っております。
（2020年8月29日、「絵本とホームページの完成お祝い会」へのメッセージより）

第107回理事会終わる

11月3日の被爆者相談講習会の昼休みに理事会を開催しました。ここまでの「活動中間報告」「会計中間報告」「後期活動計画」が提案され滞りなく承認されました。

なお被爆者相談事業として年内に被爆者への電話かけを行うことを了承しました。

お知らせ

12月～3月まで、被爆者協会とヒバクシャ会館は週3日（月・水）の営業、12月27日～1月9日はお休みとさせていただきます。

（講習会・1ページからの続き）

意見交換の時間を長くとりました。主な意見を列挙します。○月1回旭川から会館の当番に来ていた。いろんなことが分かっていた。二世の集まりをもっと持った方がいい。

○会館の存続問題を教えてほしい。

○広島見学旅行に行った。資料館は事実上貸し切り状態。事前学習の成果が確認できた。今は体験がないと言っておられない時代。若者に呼びかける方法を考えよう。

○「二世実態調査のアンケートまとめ」の学習会を。

○被爆者として惨状惨劇を語るだけではだめだ。今の若者に伝わる語りを意識している。

○（道原水協）国連軍縮週間で駅前行動を行ない、廣田会長に訴えていただいた。被爆者の思いは私たちの活動の原点。これからは被爆者と一緒に核兵器をなくす運動を続けたい。

○（濱住さん）稲城市で「平和を語り継ぐ三世代の会」を結成し活動している。継承の拠点づくりを。ヒバクシャ国際署名のつながりをぜひ生かして。